

# バレイショ新品種「しまあかり」の休眠特性を活用した出芽安定対策

9月植え作型に本土春作で4月下旬までに収穫した種いもを利用することで出芽が安定する

## 背景・目的

- ・青果用バレイショは、鹿児島県本土では出水地域及び肝属地域を中心に、離島では徳之島、沖永良部を中心に栽培
- ・主要品種はジャガイモシストセンチュウに感受性のため、安定した種苗確保が困難
- ・本県で育成したシストセンチュウ抵抗性を有する品種「しまあかり」は9～10月植付で出芽不良発生
- ・「しまあかり」の出芽不良要因の解明及びその対策が必要

## 成果の内容

- ・「しまあかり」の出芽は、種いも日齢(休眠:種いも収穫からの経過日数)の影響大
- ・種いも日齢が約150日(有効積算温度2,000度日)以上で出芽が安定(図1)
- ・種いも栽培において4月下旬までに収穫した種いもを利用(図3)

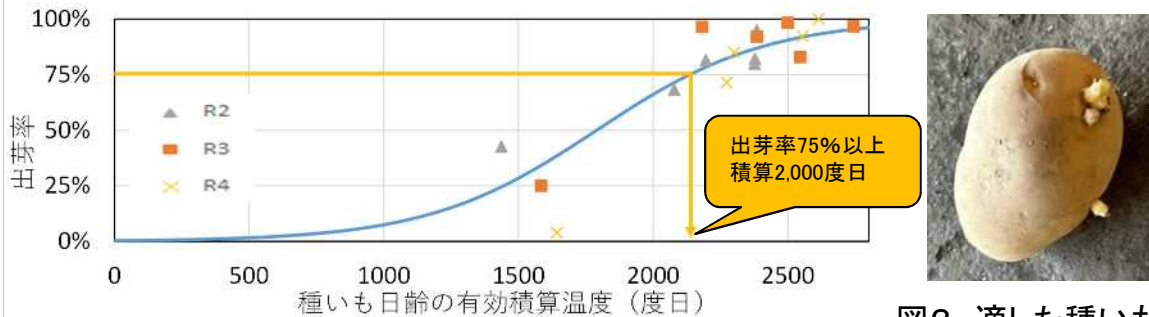


図1 種いもの日齢と出芽率の関係

図2 適した種いも  
(十分に休眠明けした状態)

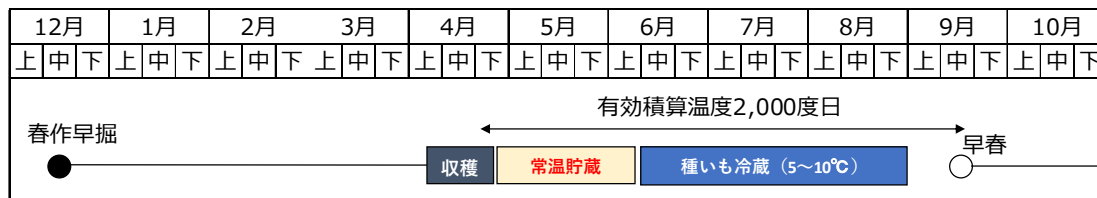


図3 長島地域での適した種いも栽培の作型と早春栽培の植付時期

## 期待される効果

○9～10月植付で出芽が安定する

「しまあかり」の9月上旬植付(10月中旬撮影)



出芽不良

出芽安定

○抵抗性品種「しまあかり」の円滑な転換

シストセンチュウ抵抗性品種の普及で  
本県バレイショ生産が安定

○普及対象・範囲 「しまあかり」に係る技術員

鹿児島県農業開発総合センター  
大隅支場園芸作物研究室